

# 社団法人 石油学会

## 平成16年度 事業報告

### 1. 庶務事項

平成16年5月19日就任の新役員の登記手続きは6月に終了した。

### 2. 会員数の状況

平成16年度末（平成17年3月31日）と前年度末の会員数を比較すると次表のとおりである。

項目 会員別	平成16年 3月31日現在	平成16年度会員数の増減			平成17年 3月31日現在
		増	減	増または減	
名誉会員	23	3	1	2	25
普通会員	3567	103	243	140	3427
学生会員	240	120	144	24	216
小計	3830	226	388	162	3668
維持会員					
1級	22	0	0	0	22
2級	10	0	0	0	10
3級	47	0	0	0	47
4級	30	0	1	1	29
5級	186	3	8	5	181
小計	295	3	9	6	289
公共会員	34	0	2	2	32
総合計	4159	229	399	170	3989

## 3. 会務の会合

平成16年度の各種会合数は次表のとおりである。

会 合 名	数	会 合 名	数
通常総会	1	資源部会(含幹事会)	2
評議員会	1	精製部会	21
理事会	4	石油化学部会(含勉強会)	5
顧問会	1	製品部会	2
運営会議	5	討論会準備委員会	2
財務委員会	1	ガソリン分科会	27
役員候補者選定委員会	1	燃料油分科会	13
職員人事委員会	2	潤滑油分科会	18
支部長会議	1	絶縁油分科会	14
会員拡大委員会	2	アスファルト分科会	10
広報委員会	2	試験分析分科会	15
情報専門委員会	4	装置部会	14
ペトロテック編集委員会	11	設備維持規格委員会(含分科会)	43
Working Group 委員会	56	機器分科会	12
石油学会論文誌編集委員会	6	配管分科会	54
刊行委員会	1	設備保全分科会	12
研究・技術企画委員会(含小委員会)	3	計装分科会	26
研究助成委員会	1	電気分科会	20
表彰委員会	2	保安分科会	3
表彰推薦委員会	2	経営情報部会(含WG)	23
表彰選考委員会(含小委員会)	9	新エネルギー部会	6
教育委員会	3	水素・燃料電池分科会	5
受託事業委員会	1	溶接士検定委員会	4
次世代環境対応型石油燃料調査WG委員会	5	標準試料委員会	1
海外協力分科会	4	設備維持管理士認定委員会	12
油中ポンプの保全技術合理化に関する調査研究委員会	7		
		合 計	500

## 4. 講演会、討論会、研究発表会ならびに見学会等の実施

月	日	曜	名 称	開催地	講演数	参加者
平成 16 年						
4	16	金	新エネルギー部会講演会「地球温暖化防止に向けたエネルギー利用多様化への取り組み - 分散型電源・コージェネ技術の進展 - 」	東京	7	90
5	19	水	第 45 回通常総会、第 47 回年会 - 受賞講演、特別講演、懇親会	東京	6	126
	20	木	受賞講演、第 53 回研究発表会、JPIJS ポスターセッション		95	234
6	4	金	第 24 回絶縁油分科会研究発表会	京都	10	86
7	23	金	資源講演会「石油産業の変革と石油・天然ガス開発」	東京	8	59
8	27	金	第 4 回 回転機研究討論会	東京	7	125
9	27 28	月 火	第 6 回日本 - クウェート研究交流	アブダビ市	9	50
10	20 21	水 木	精製講演会 「Recent Progress in Petroleum Process Technology」	東京	14	140
11	18 19	木 金	松山大会 特別講演、第 34 回石油・石油化学討論会、懇親会	松山	195	450
12	2 3	木 金	2004 石油製品討論会 「環境対応石油製品の開発と分析評価技術の進展」	東京	19	133
12	3	金	触媒シンポジウム「プロピレンへのシフト - 最近のプロピレン増産技術とプロピレン誘導品の現状と展望 - 」	東京	5	81
12	5 6	日 月	第 14 回日本 - サウジ合同セミナー	ダハラン市	15	120
12	9 10	木 金	第 35 回装置研究討論会「設備の信頼性と最適コストの追求」	東京	11	136
平成 17 年						
1	21	金	設備維持規格講習会	大阪	3	76
1	28	金	設備維持規格講習会	東京	3	52
2	10	木	第 30 回精製パネル討論会	東京	3	180
2	17	木	第 5 回電気研究討論会 「特高・高圧配電盤の老朽化対策・診断技術と更新判断」	東京	7	135
2	27	日	平成 16 年度設備維持管理士（配管・設備）認定試験	東京 大阪	-	104 127
3	3	木	第 22 回計装研究討論会	東京	6	140

## 5. 研究助成

平成17年度の助成は下記のとおり、若手研究者3名および1部会に決定した。

## [若手研究者]

- (1) 「CO<sub>2</sub>固定化能を有する酵素と光アンテナ色素分子を担持した金ナノ微粒子の創製と水を反応媒体とした有機合成反応への応用」(助成額 100万円)

大分大学工学部応用化学科 助教授 天尾 豊氏

- (2) 「ユニット法による結晶性アルカン高選択部分酸化触媒合成法の開発」(助成額 100万円)

北海道大学触媒化学研究センター 助手 定金 正洋氏

- (3) 「MWW 構造を有するゼオライトの固体酸触媒特性の検討」(助成額 60万円)

早稲田大学理工学術院 助手 稲垣 怜史氏

## [部会]

「海外石油精製・石油化学企業での経営情報システム化の現況と今後の動向」(助成額 40万円)

経営情報部会

## 6. 会務部門

## (1) 支部活動

北海道、東北、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の6支部があり、活動は次表のとおりである。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道支部						
16	7	24	日本化学会北海道支部夏季研究発表会共催	苫小牧	118	110
16	12	3	触媒学会北海道地区札幌講演会共催	札幌	6	70
16	12	6	第5回北海道支部講演会、日本I社 <sup>®</sup> -学会共催	函館	2	40
17	2	1	第5回北海道支部研究発表会、日本I社 <sup>®</sup> -学会共催	札幌	14	40
東北支部						
16	11	12	第24回東北支部講演会	郡山	4	48
東海支部						
16	8	16 20	大学院生の製油所インターンシップ研修 (昭和四日市石油・四日市製油所)	四日市		2
16	8	23 27	大学院生の製油所インターンシップ研修 (出光興産・愛知製油所)	知多		2
16	8	23 27	大学院生の製油所インターンシップ研修 (コスモ石油・四日市製油所)	四日市		2
16	8	23 27	大学院生の製油所インターンシップ研修 (ジャパンエナジー・知多製油所)	知多		1
関西支部						
16	5	26	関西支部企業見学会 (放射光施設 Spring-8、関西電力・姫路発電所)	姫路		18
16	9	24	第12回関西支部学生企業見学会 (三井化学・大阪工場)	大阪		25
16	10	13	第11回関西支部セミナー	大阪	3	33
16	12	3	第13回関西支部研究発表会(日本I社 <sup>®</sup> -学会共催)	京都	21時~21時12分	60

中国・四国支部						
17	2	10	第9回中国・四国支部技術交流会	倉敷	10	77
九州・沖縄支部						
17	1	21	第3回九州・沖縄支部講演会	北九州	3	55
17	1	26	第4回九州・沖縄支部講演会	鹿児島	2	40

## (2) 広報活動

- a) 講演会、研究発表会等の学会活動を報道各社への紹介および広告拡大の検討を行った。  
b) HPに「石油豆知識」および「石油関連のHPリンク集」を新設し、さらに内容の拡充を行った。

## (3) ジュニア・ソサイアティ (JPIJS) の活動

- a) 平成16年5月20日(木)開催の、第53回研究発表会に併せて、第9回ポスターセッションを開催した。参加29件のうちから投票により、ベストポスター賞(上智大 永田将人氏)、ベストデザイン賞(島根大 角野健史氏)をそれぞれ選出、表彰を行った。  
b) ペトロテック各号にJPIJSだよりを掲載した。  
c) その他、全国においての活動は次表のとおりである。

年	月	日	名 称	開催地	講演数	参加者
北海道・東北地区						
16	8	5 6	第44回オーロラセミナー(触媒学会共催)	札幌	8	77
17	3	18	2004年度北海道・東北地区講演会	仙台	3	13
関東地区						
16	10	28	講演会「関東地区セミナー」	小金井	3	33
関西地区						
16	7	9 10	エネルギー・石油の未来を担う若手のためのコロキウム 「Spring-8、関西電力・姫路発電所見学会・講演会」	姫路	1	43
九州地区						
16	1	21	講演会「水素製造用触媒および反応器の最前線」	北九州	3	55

## 7. 学術刊行部門

(1) 一般誌(ペトロテック月刊)を発行し、会員に配布したほか、一部外部に頒布した。

1) 各月の主な内容は次表のとおりである。

	16年												合計 件数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	
時評・会長あいさつ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
座談会	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	9
一般総説・資料	7	11	8	6	7	9	7	8	10	7	7	11	98
分析・評価技術入門	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
プロセス紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
世界の石油田・大ガス田	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
これも私の生きる道	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

私事白書	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辛口放談	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
英語酒飲み話2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
PECだより	2	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	17
JPLJSだより	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	11
各世代に聞く	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
ふるさと自慢	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
随想	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
今月の一口メモ	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46
新技術紹介	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
新刊紹介・書評	0	1	2	0	1	1	0	1	0	0	2	1	9
統計	1	1	1	1	1	1	13	1	1	1	1	1	24
全頁数	84	86	84	84	82	82	74	78	85	80	70	80	969

2) 特集記事を以下のとおり掲載した。

平成16年4月号「知的財産に関連する最近の動き」、5月号「次世代エネルギーの可能性」、  
9月号「エネルギー利用多様化への取り組み」、12月号「天然ガス資源と用途開発」、  
平成17年3月号「ダイヤモンド状炭素膜」

3) その他毎月、国内・海外の最近のニュース、解説記事、学会活動を報告する「学会の窓」を掲載した。また、甲辞、トピックス、論文誌掲載論文要旨などを適宜掲載した。

(2) 論文誌(隔月刊)を発行し、維持会員(490部)、公共会員(32部)および普通会員・学生会員中購読希望者(321部)に配布したほか、外部に各号71部を頒布し、国内に48部、海外に77部を寄贈している(平成17年3月末日現在)。平成16年度の掲載内容は次表のとおりである。また、J-Stage上で平成16年6月より本誌のオンライン公開を開始し、第46巻第1号～第48巻第1号までを公開した(平成17年3月末日現在)。

巻数	47巻				48巻		合計
	3	4	5	6	1	2	
号数	3	4	5	6	1	2	6
総合論文	3	1	-	2	-	1	7
一般論文	3	6	7	2	8	6	32
ノート	1	2	1	1	-	-	5
技術報告	1	-	-	-	-	-	1
レター	1	-	-	2	-	-	3
投書	-	-	-	-	-	-	-
件数合計	9	9	8	7	8	7	48
全頁数	79	78	56	53	66	54	386

(3) 創立45周年事業の一環として、平成16年11月9日に単行本『もうクルマは空気を汚さない』を刊行した。

## 8. 研究・技術交流部門

### (1) 表彰

石油学会表彰規程ならびに野口記念賞表彰規程により、学会賞3件、論文賞2件、技術進歩賞2件、学会功績賞2名、野口記念賞1件、野口記念奨励賞1名の授賞を決定した(詳細は報告事項 参照)。なお、奨励賞については該当者なしと決定した。

### (2) 教育委員会

大学生(院生を含む)、一般市民などを対象として、石油に関する基礎知識、とりわけ実務面から理解を深め石油に対する興味を高めてもらうため、移動大学「石油関連セミナー」を石油連盟の支援の下に、全国で17大学・会場、講義数62コマを実施した。本年度は厚木市、市川市、およびさいたま市のそれぞれで市民講座を実施し、また市川市の小学校2校でも講義を実施した。本年度の聴講延べ人数は約6,000人であった。

平成9年度から通算すると総コマ数402コマ、聴講延べ人数37,500人に達している。

### (3) 受託業務

- 1) (株)石油産業技術研究所から 国産乗用車の運転性試験、ディーゼル車の燃料供給システム調査について受託し、調査・試験を実施した。
- 2) (財)国際石油交流センターから「産油国石油精製技術等対策事業」として、産油国研究者の受入、産油国研究者との現地交流について受託し、調査・研究を実施した。
- 3) (財)石油産業活性化センターから「石油を原燃料とした水素製造、燃料電池技術に関する調査研究」について受託し、調査・研究を実施した。
- 4) (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構から「油中ポンプの保全技術合理化に関する調査研究」について受託し、調査を実施した。

### (4) 外部団体に対する協力

他学協会、その他の団体から事業の共催、協賛などの依頼を受けて積極的に協力した。

## 9. 部会部門

### (1) 資源部会(地質、探鉱、開発、生産、環境)

- 1) 平成16年7月23日(金)に資源講演会「石油産業の変革と石油・天然ガス開発」を企画し、実施した。
- 2) 平成16年11月18日(木)、19日(金)に開催された「第34回石油・石油化学討論会」において「石油・天然ガスの開発」のセッションを企画し、協力した。

### (2) 精製部会(プロセス、製油、環境)

- 1) 平成16年10月20日(水)、21日(木)に精製講演会「Recent Progress in Petroleum Process Technology」を企画し、実施した。
- 2) 平成17年2月10日(木)に第30回精製パネル討論会「製油所のグループ活動、FCC装置、BTX増産への取組み」を企画し、実施した。
- 3) 第29回精製パネル討論会会議録(平成16年2月13日(金)開催)を発行した。
- 4) 平成16年7月9日(金)に北陸電力・富山新港火力発電所の見学を実施した。

### (3) 石油化学部会(ケミカルプロダクト、反応分離、バイオテクノロジー、触媒)

- 1) 平成16年11月18日(木)、19日(金)に開催された「第34回石油・石油化学討論会」において「石油・石油化学における新しい触媒技術」「石油・石油化学産業とバイオ技術」「反応分離」「ケミカルズ合成技術の新展開」「ポリマーオリゴメリゼーション」のセッションを企画し、協力した。

- 2) 平成 16 年 12 月 3 日(金)に触媒シンポジウム「プロピレンへのシフト - 最近のプロピレン増産技術とプロピレン誘導品の現状と展望 - 」を企画し、実施した。
- 3) 次のテーマで専門の講師を招き、勉強会を実施した。
  - \* 自動車産業の現状と高分子材料の課題 (大庭敏之氏・日産自動車)
  - \* グリーンケミストリー指向の分子レベル、ナノ粒子レベルの触媒設計とその応用に関するトピックス (金田清臣氏・大阪大学)
  - \* フラットパネルディスプレイ材料 (豊岡武裕氏・新日本石油)
  - \* 建築業における化学物質管理への対応と現状 (佐々木静郎氏・熊谷組)
  - \* 自動車への樹脂材料適用状況と今後の展開 (斉藤正夫氏・日産自動車)
  - \* VOC規制に係わる塗料分野の自主的取組み (安藤研司氏・日本ペイント)
- (4) 製品部会 (分析、試験、製品開発、環境)
  - 1) 平成 16 年 12 月 2 日(木)、3 日(金)に 2004 石油製品討論会「環境対応石油製品の開発と分析評価技術の進展」を企画し、実施した。
  - 2) ガソリン分科会
    - a) (株)石油産業技術研究所から「国産乗用車の運転性試験」について受託し、調査・試験を実施した。
    - b) CFRオクタン価のリサーチ法およびモータ法JIS規格改訂作業に協力した。
    - c) 第34回CFRオクタン価照合試験を行った。
  - 3) 燃料油分科会  
(株)石油産業技術研究所から「ディーゼル車の燃料供給システム調査」について受託し、調査・試験を実施した。
  - 4) 潤滑油分科会
    - a) エンジン汚れ評価法のJPI規格普及のため第31回レイティングシンポジウムを開催した。
    - b) 自動車用ギヤ歯面損傷の評価に関する第3回レイティングシンポジウムを実施した。
    - c) JPI-5S-15-94 [陸用ディーゼルエンジンピストン評価法]の見直しを実施した。
    - d) JPI-5S-29-88 [潤滑油せん断安定度試験方法]の見直しを実施した。
  - 5) アスファルト分科会  
SHRP (新道路研究計画) バインダー試験方法について検討を行った。
  - 6) 絶縁油分科会
    - a) 平成 16 年 6 月 4 日(金)に「第 24 回絶縁油研究発表会」を企画し、実施した。
    - b) 電気特性測定方法のJISとIECの試験装置の違いについて検討を行った。
    - c) 小型変圧器絶縁油保守管理指針を作成するための調査を行った。
    - d) 絶縁油の特性評価方法としての水素ガス吸収性について検討を行った。
    - e) 劣化絶縁油と絶縁物の水分平衡関係について検討を行った。
  - 7) 試験分析分科会
    - a) JPI-5S-23-84 [エンジン油の軽油希釈率試験方法]の見直しを実施した。
    - b) JPI-5S-24-84 [エンジン油のガソリン希釈率試験方法]の見直しを実施した。
    - c) 石油製品中の残留炭素分試験方法について検討を行った。
    - d) CHNO分析計によるガソリン中の酸素分試験方法について検討を行った。
    - e) JPI-5S-63-02 [石油製品 - 硫黄分試験方法]の見直しを実施した。
    - f) JPI-5S-49-97 [石油製品 - 炭化水素タイプ試験方法 - 高速液体クロマトグラフ法]の見直し

を実施した。

(5) 装置部会 (装置、機器、その他付帯設備、配管、材料 (腐食防食、強度)、計装、制御、電気、保全、安全、環境)

(5-1) 装置委員会

1) 平成16年12月9日(木)、10日(金)に第35回装置研究討論会「設備の信頼性と最適コストの追求」を企画し、実施した。

2) 機器分科会

a) 機器分科会関係の次の規格類の見直しおよび改訂を実施した。

\* JPI-7S-8-04 [塔類プラットホーム及びラダー] (平成16年10月6日改訂発行)

\* JPI-7R-35-04 [スカート有する塔さう類の強度計算] (平成16年10月6日改訂発行)

\* JPI-7R-52-96 [横置容器サドル周り強度計算]

\* JPI-7R-53-96 [横置容器サドル]

\* JPI-7S-80-04 [縦形容器用リフティングラグ] (平成16年10月6日改訂発行)

b) 回転機専門委員会にて次の活動を実施した。

\* 「往復動圧縮機規格調査」を実施した。

\* 「遠心ポンプ製作検査規格調査」を実施した。

\* 平成16年8月27日(金)に「第4回 回転機研究討論会」を企画し、実施した。

\* 平成17年2月25日(金)に回転機規格動向講演会「API、ISO、JISの最新情報」を企画し、実施した。

3) 配管分科会

配管基準専門委員会、バルブ専門委員会、フランジ専門委員会、ガスケット専門委員会、管及び管継手専門委員会、バルブ・フランジ圧力温度基準統合WGを配管分科会の下部組織とし、次の規格類の見直しおよび改訂を実施した。

\* JPI-7S-15-05 [石油工業用フランジ] (平成17年3月15日改訂発行)

\* JPI-7S-41-05 [配管用うず巻形ガスケット] (平成17年3月15日改訂発行)

\* JPI-7S-65-05 [フランジ及びバルブのP-Tレイティング] (平成17年3月15日改訂発行)

\* JPI-7S-67-00 [石油工業用バルブの基盤規格]

\* JPI-7R-76-93 [バルブのユーザーガイド]

\* JPI-7S-77-02 [石油工業用プラントの配管基準] (HP上で平成16年8月18日追補を公開)

\* JPI-7S-81-05 [配管用ガスケットの基準] (平成17年3月15日改訂発行)

4) 設備保全分科会

a) 平成16年10月7日(木)、8日(金)に新日本石油精製(株)室蘭製油所、(株)日本製鋼所 室蘭製作所の見学を行い、「十勝沖地震の被害状況とその後の対策」「各社タンクの保全について」「2.25Cr1Mo 圧力容器の安全解析手順」をテーマとした各社事例紹介、意見交換を行った。

b) 平成16年9月10日(金)に第17回設備保全分科会シンポジウム「流動接触分解装置」を企画し、実施した。

c) 次の事例紹介・技術紹介・情報交換を行った。

\* アミン再生塔における特異な腐食現象(ジャパンエナジー・岡崎氏)

\* アミン装置の問題点(伯東・車戸氏)

\* 熱疲労割れ(ジャパンエナジー・村上氏)

\* Naフリーの原油中和塩分の中和・加水分解制御プログラム(栗田工業・萩原氏)

\* エチレンプラント・ナフサ分解炉模擬環境におけるクラッキングチューブ材の浸炭挙動  
(住友金属工業・西山氏)

\* アミン装置における腐食を中心に各社の装置故障事例の情報交換

\* 熱疲労に関するアンケート調査結果報告とそれに係わる情報交換

d) 日本学術振興会主催の先導的研究委員会(化学プラントのリスクベース保全技術)に委員として4名派遣した。

#### 5) 計装分科会

a) 次の勉強会、見学会、アンケートを行った。

\* 流量計のトレーサビリティ(産業技術総合研究所・高本氏)

\* 安全計装システム(山武・林氏)

\* ディーエムイー開発(DME実証プラント)の見学(平成16年10月1日)

\* 羽田空港のANA整備場(航空会社の検査技術)の見学(平成16年11月17日)

\* アウトソーシングに関するアンケート

\* 加熱炉チューブの温度監視に関するアンケート

b) 平成17年3月3日(木)に「第22回計装研究討論会」を企画し、実施した。

c) JPI-7B-92-04[安全計装システム設計資料]を平成16年10月6日に制定した。

#### 6) 電気分科会

a) 次の勉強会、見学会、アンケートを行った。

\* 防爆検定に関する最近の動向(産業安全技術協会・永石氏)

\* PCB機器の実態調査(保管中のPCB使用機器の種類・数量、現在使用しているPCB使用機器の実態調査、変圧器およびOFケーブルの微量PCB混入の検出事例・調査の実態・今後の対応等、PCB廃棄処理計画の有無等)

\* トラブル事例の収集

\* 電気維持規格分科会から提示された「電動機」「配電盤」のアンケート調査

\* ジェネックス・水江発電所の見学(平成16年10月29日)

b) 平成17年2月17日(木)に第5回電気研究討論会「特高・高圧配電盤の老朽化対策・診断技術と更新判断」を企画し、実施した。

#### 7) 保安分科会

「リスク・コミュニケーション・ガイドライン」作成作業を実施した。

#### (5-2) 設備維持規格委員会

配管・設備維持規格合同分科会、電気維持規格分科会、計装維持規格分科会、回転機維持規格分科会を下部組織とし、次の規格類の見直しおよび改訂・制定を実施した。

\* JPI-8S-1-04[配管維持規格](平成16年5月7日改訂発行。HP上で平成16年12月24日追補を公開)

\* JPI-8S-2-03[設備維持規格](HP上で平成16年12月24日追補を公開)

\* JPI-8R-11-03[防食管理](HP上で平成16年12月24日追補を公開)

\* JPI-8R-14-05[耐圧気密試験](平成17年3月15日改訂発行)

\* JPI-8R-15-05[フランジ・ボルトの締付管理](平成17年3月15日改訂発行)

\* JPI-8S-4-04[電気設備維持規格](平成16年9月15日制定発行)

\* [計装設備維持規格]の制定審議

\* [回転機設備維持規格]の制定審議

## (6) 経営情報部会(経済、統計、経営、OR、情報、システム、環境)

1) 下記のWGを設け、調査・検討を行った。

## a) 「石油会社のシステム化に関する調査検討」

石油業における情報システムは事業所単位の「分散管理」と複数事業所の「集約管理」となっているが、それぞれの管理形態の功罪を検討し、情報システムの管理方針の基本構想案を作成した。また、この基本構想案をもとに石油会社と意見交換を実施した。

## b) 「製油所内における無線ITインフラ利用に関する考察」

国内製油所での無線通信機器使用の運用状況について国内各製油所にアンケートを実施した。アンケート結果をもとに製油所での利用実態、導入課題等について検討、および無線通信機器のベンダー調査も行った。また、住友化学工業・大分工場において無線通信機器の導入事例調査を実施した。

2) 平成17年3月10日(木)に上記2WGの活動報告会を実施(公開)した。

3) 上記、報告会に併せて次の部会招待講演を企画し、実施した。

「インクリメンタル開発方法と知識ベースビジネスの創生」

ジェネクス・ジャパン(株)代表取締役社長 大脇 文雄氏

## (7) 新エネルギー部会(エネルギー、地球環境問題)

1) 平成16年4月16日(金)に新エネルギー部会講演会「地球温暖化防止に向けたエネルギー利用多様化への取り組み - 分散型電源・コージェネ技術の進展 -」を企画し、実施した。

2) 平成17年5月27日(金)に新エネルギー部会講演会「来たるべき水素社会に向けてエネルギー産業が果たすべき役割」 - 水素・燃料電池技術開発への取り組み -」を企画した。

3) 水素・燃料電池分科会

(財)石油産業活性化センターから「石油を原燃料とした水素製造、燃料電池技術に関する調査研究」について受託し、調査・研究を実施した。

## 10. 認証部門

## (1) 溶接士の認定事業

本年度の新規認定者数は1,525名で、現在までの累計認定者数は128,846名である。

## (2) 標準物質の認定事業

本年度の認定数は次のとおりである。

硫黄分	1,894
窒素分	176
ニッケル・バナジウム分	49
FIA用	21
軽油硫黄分	572
標準ガソリン	91
流動点	27
合 計	2,830

## (3) 設備維持管理士認定事業

1) 設備維持規格の講習会を平成17年1月21日(金)に大阪、1月28日(金)に東京で実施した。

2) 設備維持管理士認定試験を平成17年2月27日(日)に東京および大阪にて実施した。その結果、設備維持管理士(配管・設備)として124名を認定した。